

1 グループ

- ・ 事前調査で挙げた項目が多く、全てを検討することはできなかった
- ・ 挙げた意見について検証が必要な事項について調べていく必要がある
- ・ 地域資源について検証していかないと分らないものがある
- ・ 7月初めの大雨では避難レベル4が出ていたが、実際に避難した人は少なかった
- ・ 避難することで生じるリスクと、その場に留まることでのリスクどちらもあったのでは
- ・ 福祉避難所の設備について情報があるといい
電源の確保や仕切り（スペースの確保）はあるのか
- ・ 自助努力として→避難について絵本を利用して子どもに事前に教えておくがよいのでは
（熊本地震の後に、建物の揺れや物が落ちてきたことによるトラウマで家が怖くて帰れなくなった子どもたちのために作られた絵本として「やっぱりおうちがいいな」がある）
- ・ 家にいる1人の対象者の避難を想定して、多くの人を巻き込んで避難の練習をしてはどうか

2 グループ

- ・ 始良市のマニュアルはどのようになっているか
- ・ 避難における要支援者の把握や名簿があるか
- ・ 福祉避難所はどこに設置されて、実際どのように運営されているか
- ・ 7月初めに体験した大雨や災害に関するアンケートをとると、今後活かすことができるのではないか
- ・ 始良市での避難訓練はいつ、どこでおこなわれているか
- ・ 学校においては保護者への引き渡しの訓練をすすめている

3 グループ

- ・ 重症心身障害者、医療的ケアが必要な方については医師会との連携が必要なのではないか
- ・ 医療機器を使用するための電源の確保や必要な物品がない可能性があり、自宅を出て避難することは難しいのではないか
- ・ 行政、民間社会福祉事業連絡会（民事連）、身体障害者協会との連携が必要と考えられる
- ・ 始良市の防災マニュアルや避難所のマップが市民に周知されていないので、どのように行動してよいか分らない
- ・ 加治木養護学校では長期的に避難が必要となった場合には電源の確保や必要機器がないことから、利用している事業所に依頼することになりそう
移動手段の確保や事業所がどこまで対応できるかなど課題がある

4 グループ

- ・福祉避難所について検討した（行政側できることを6項目、各個人ができること1項目）

[行政]

- ① 福祉避難所の場所を示すマップがあるとよい
福祉避難所開設を知らせるシステムの構築（メールまたは放送など）
- ② 養護学校の生徒は養護学校が避難所になるほうがよい
- ③ ヘルプカードの周知徹底、受け取り場所について
（一般の避難所で順番を待ち並ぶことができない、待つことができないなど）
- ④ 福祉避難所開設に関わるスタッフの研修会について
（熊本地震を体験された方を講師として招くなど）
- ⑤ 災害時に必要となる物品一覧表の作成（イラストを用いて）
例：お薬手帳を水に濡れてもいいようにパウチしておく、どんな薬が処方されているかわかるように写真を撮っておく
- ⑥ シンボルカードの設置、トイレの洋式化

[各個人]

- ・偏食や食べられるものが限られることもあり、備蓄が必要
避難時の食事を実際に食べたり、避難所を想定し宿泊するなど